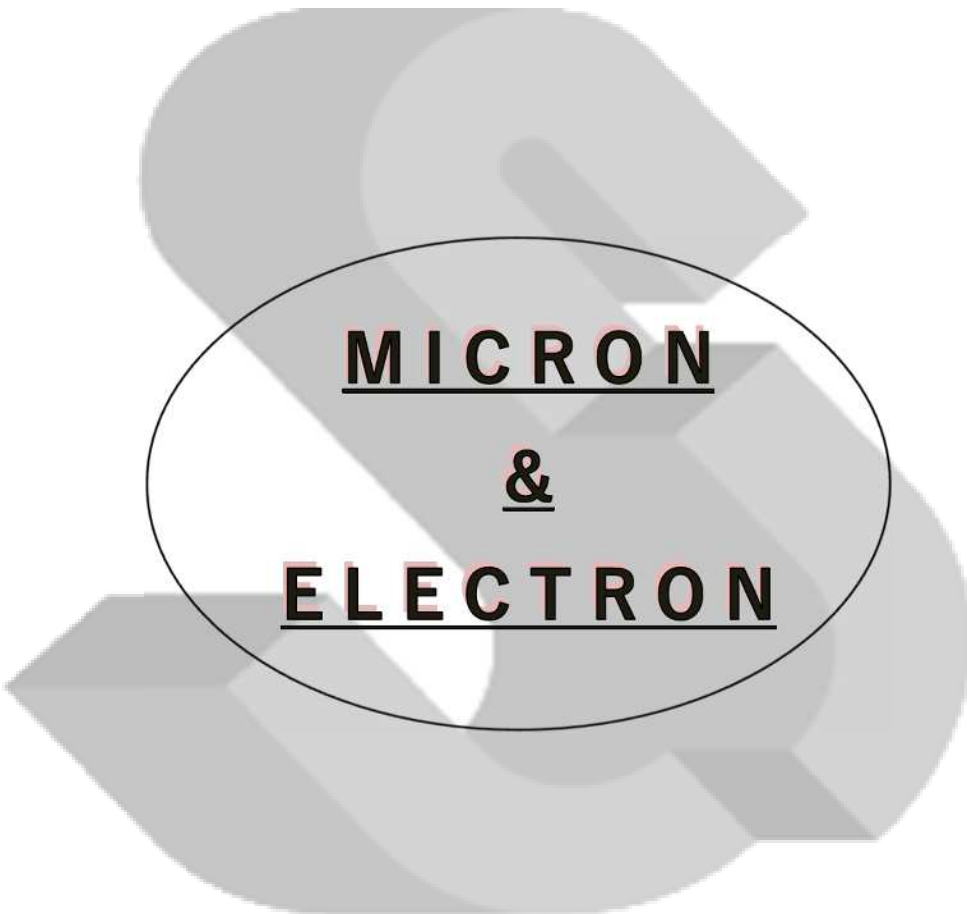

株式会社 鈴木

2024年6月期
決算説明資料

August 27, 2024



MICRON
&
ELECTRON

SUZUKI CO.,LTD.



東証プライム code:6785

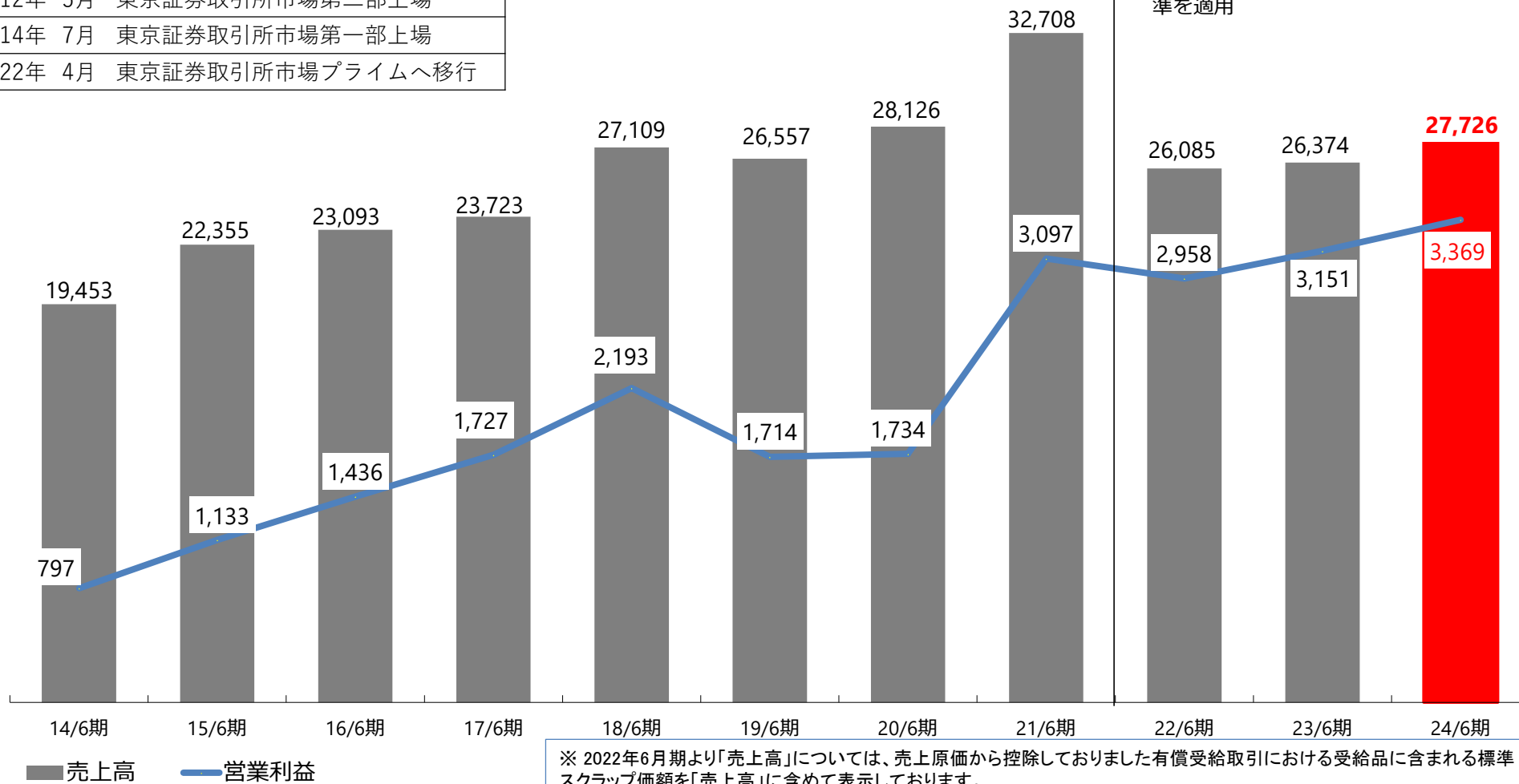
2024年6月期 業績説明

成長の軌跡

(単位：百万円)

2001年 2月	株式店頭登録 (JASDAQ)
2012年 5月	東京証券取引所市場第二部上場
2014年 7月	東京証券取引所市場第一部上場
2022年 4月	東京証券取引所市場プライムへ移行

22/6期より新収益認識会計基準を適用



※ 2022年6月期より「売上高」については、売上原価から控除しておりました有償受給取引における受給品に含まれる標準スクラップ価額を「売上高」に含めて表示しております。

連結損益計算書

- 2024年6月期の営業利益は前期比で6.9%増加
- 部品セグメントの主力であるスマートフォン関連部品の需要は低調で、産機向けや半導体関連向けの電子部品は復調が想定より遅れました。
一方、自動車電装部品は堅調に推移しました。
- 機械器具セグメントの自動機器は顧客の自動車関連設備の需要は慎重に推移したため伸び悩みました。
医療組立は増産計画に沿って堅調に推移しました。

(単位：百万円)

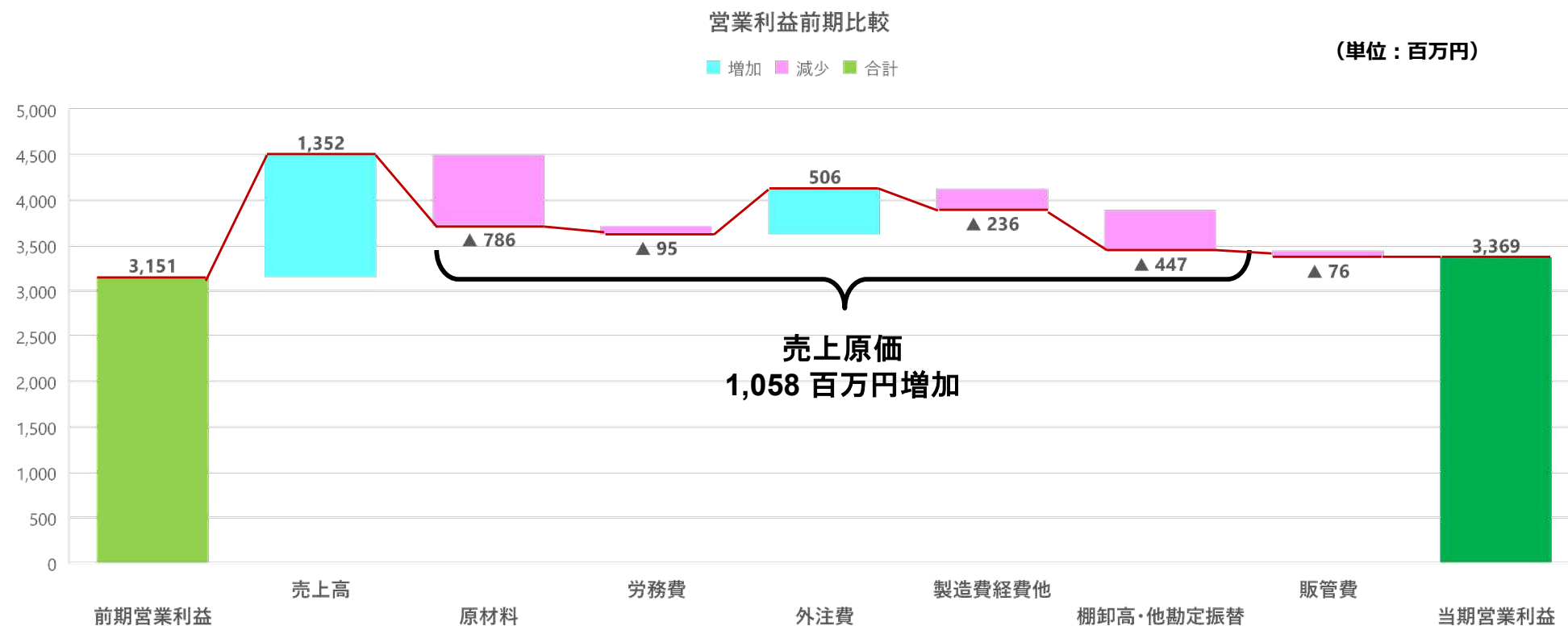
	2023年6月期		2024年6月期		増減	
	金額	売上比%	金額	売上比%	金額	増減比%
売上高	26,374	-	27,726	-	1,352	5.1
売上総利益	5,356	20.3	5,650	20.4	294	5.5
営業利益	3,151	11.9	3,369	12.2	218	6.9
経常利益	3,236	12.3	3,668	13.2	432	13.3
親会社株主に帰属する当期純利益	1,956	7.4	2,267	8.2	311	15.9

連結損益計算書（前期比/営業利益増減）

■ 営業利益 218 百万円増加の内訳

+ 要因：売上高 1,352 百万円増加

- 要因：売上原価 1,058 百万円増加、販管費 76 百万円増加



連結事業別セグメント情報

セグメント別 売上高 前期比較

(単位：百万円)

	前 期		当 期		増 減	
	金額	構成比%	金額	構成比%	金額	前期比%
■ 金型	1,591	6.0	1,561	5.6	△30	△1.9
■ 部品	19,031	72.2	20,430	73.7	1,399	7.3
■ 電子部品コネクタ	15,418	58.5	16,010	57.7	592	3.8
■ 自動車電装部品コネクタ	3,614	13.7	4,420	15.9	807	22.3
■ 機械器具	5,743	21.8	5,726	20.7	△17	△0.3
■ 賃貸	7	0.0	7	0.0	0	2.2
合計	26,374	100	27,726	100	1,352	5.1

セグメント利益 前期比較

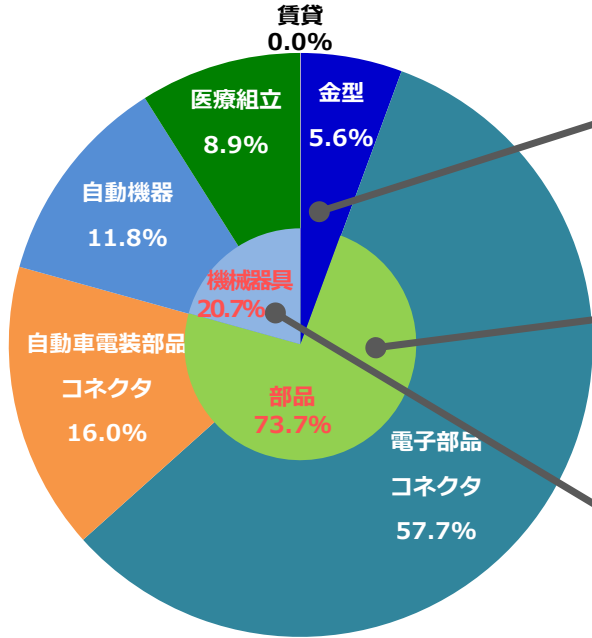
(単位：百万円)

	前 期		当 期		増 減	
	金額	構成比%	金額	構成比%	金額	前期比%
■ 金型	280	6.6	612	13.3	332	118.3
■ 部品	3,354	79.0	3,242	70.3	△112	△3.3
■ 電子部品コネクタ	2,767	65.1	2,464	53.5	△303	△11.0
■ 自動車電装部品コネクタ	587	13.8	778	16.9	191	32.5
■ 機械器具	544	12.8	672	14.6	128	23.6
■ 賃貸	70	1.6	82	1.8	13	18.4
合計	3,971	100	4,610	100	361	8.5

セグメント利益については、セグメント間取引消去前の金額で記載しております。

連結事業別セグメント情報

2024年6月期セグメント別売上高構成、前年同期比較



【金型セグメント】

- 電子機器向け、自動車電装向けで減収したものの、効率化と高付加価値化が奏功して増収
売上高 1,561百万円、前年同期比1.9%減少
- セグメント利益 332百万円、前年同期比118.3%増加

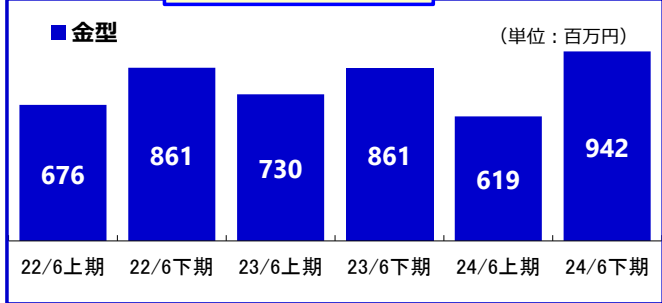
【部品セグメント】

- 電子部品コネクタは、スマホ向けが低調に推移し、産機・半導体向けは想定よりも復調が遅れた
売上高16,010百万円、前年同期比3.8%増加
- 自動車電装部品コネクタは、堅調に推移して増収
売上高4,420百万円、前年同期比22.3%増加
- セグメント利益 3,242百万円、前年同期比3.3%減少

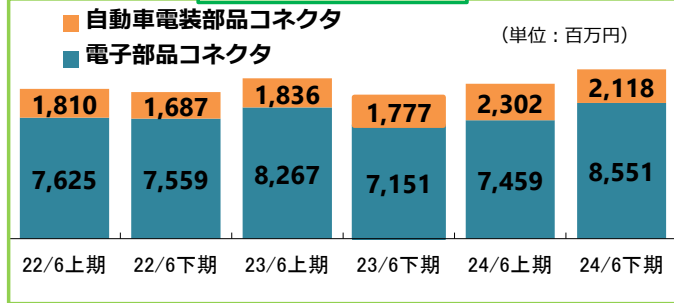
【機械器具セグメント】

- 自動機器は、自動車関連の顧客で、設備投資が慎重になり減収
売上高3,250百万円、前年同期比4.8%減少
- 医療組立は、堅調に推移して増収、売上高2,476百万円、前年同期比6.3%増加
- セグメント利益 672百万円、前年同期比23.6%増加

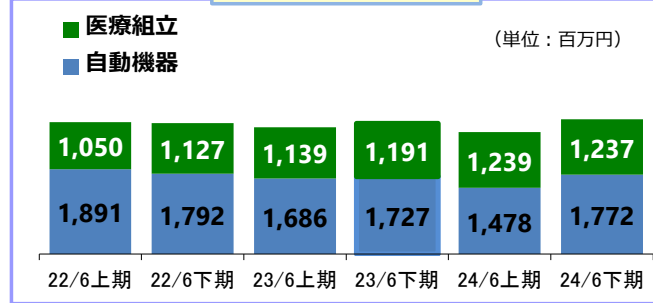
金型セグメント



部品セグメント



機械器具セグメント



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2023年6月期	2024年6月期	増減額
流動資産	15,422	17,105	1,682
現金及び預金	4,499	6,011	1,511
受取手形及び売掛金	5,957	6,422	463
たな卸資産	3,787	3,573	△214
固定資産	19,005	19,958	954
有形固定資産	17,063	17,414	351
無形固定資産	101	109	8
投資その他の資産	1,840	2,435	595
資産合計	34,428	37,063	2,635
流動負債	7,797	8,472	675
買掛金+契約負債+前受金	4,289	4,786	497
未払金	582	624	42
未払法人税等	551	553	2
固定負債	3,078	2,526	552
長期借入金	1,780	1,179	601
純資産	23,552	26,065	2,513
負債及び純資産合計	34,428	37,063	2,635

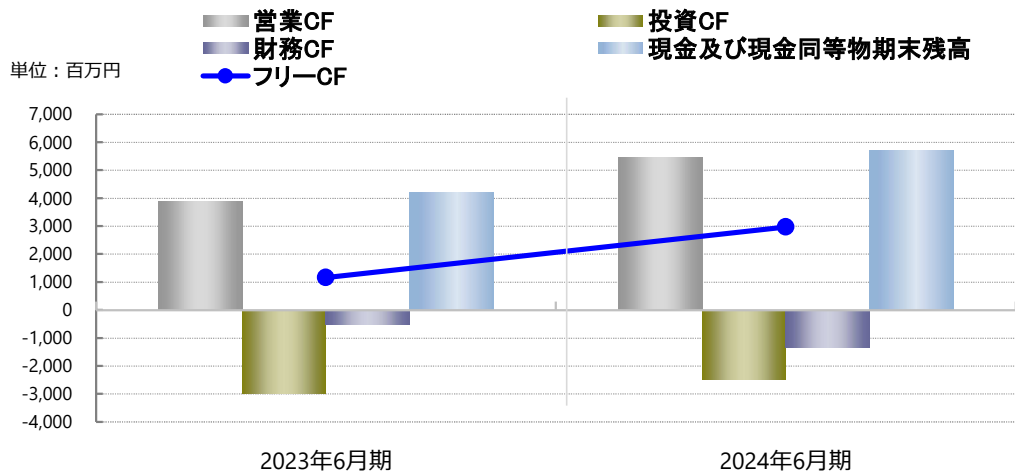
財務体質は健全な水準を維持

	2023年6月期	2024年6月期
短期借入金	1,108	1,139
一年内返済予定長期借入金	636	601

有利子負債	2023年6月期	2024年6月期
	3,526	2,920

	2023年6月期	2024年6月期
流動比率	197.8%	201.9%
当座比率	134.1%	146.7%
固定比率	82.9%	79.2%
自己資本比率	66.6%	68.0%

連結キャッシュフロー計算書



(単位：百万円)

	2023年6月期	2024年6月期
営業活動によるキャッシュフロー	3,877	5,445
投資活動によるキャッシュフロー	△2,984	△2,478
フリーキャッシュフロー	894	2,967
財務活動によるキャッシュフロー	△521	△1,338
現金及び現金同等物に係る換算差額	△22	△118
現金及び現金同等物の増減額	350	1,511
現金及び現金同等物の期末残高	4,211	5,723

【営業活動によるキャッシュフローの主な項目】

税引前当期純利益	3,756百万円
減価償却費	2,228百万円
仕入債務の増減額	392百万円
棚卸資産の増減額(増：△)	272百万円
法人税等の支払額	△1,088百万円

【投資活動によるキャッシュフローの主な項目】

有形固定資産の取得による支出	△2,547百万円
----------------	-----------

【財務活動によるキャッシュフローの主な項目】

長期借入金の返済による支出	△637百万円
配当金の支払額	△430百万円
非支配株主への配当金の支払額	△207百万円



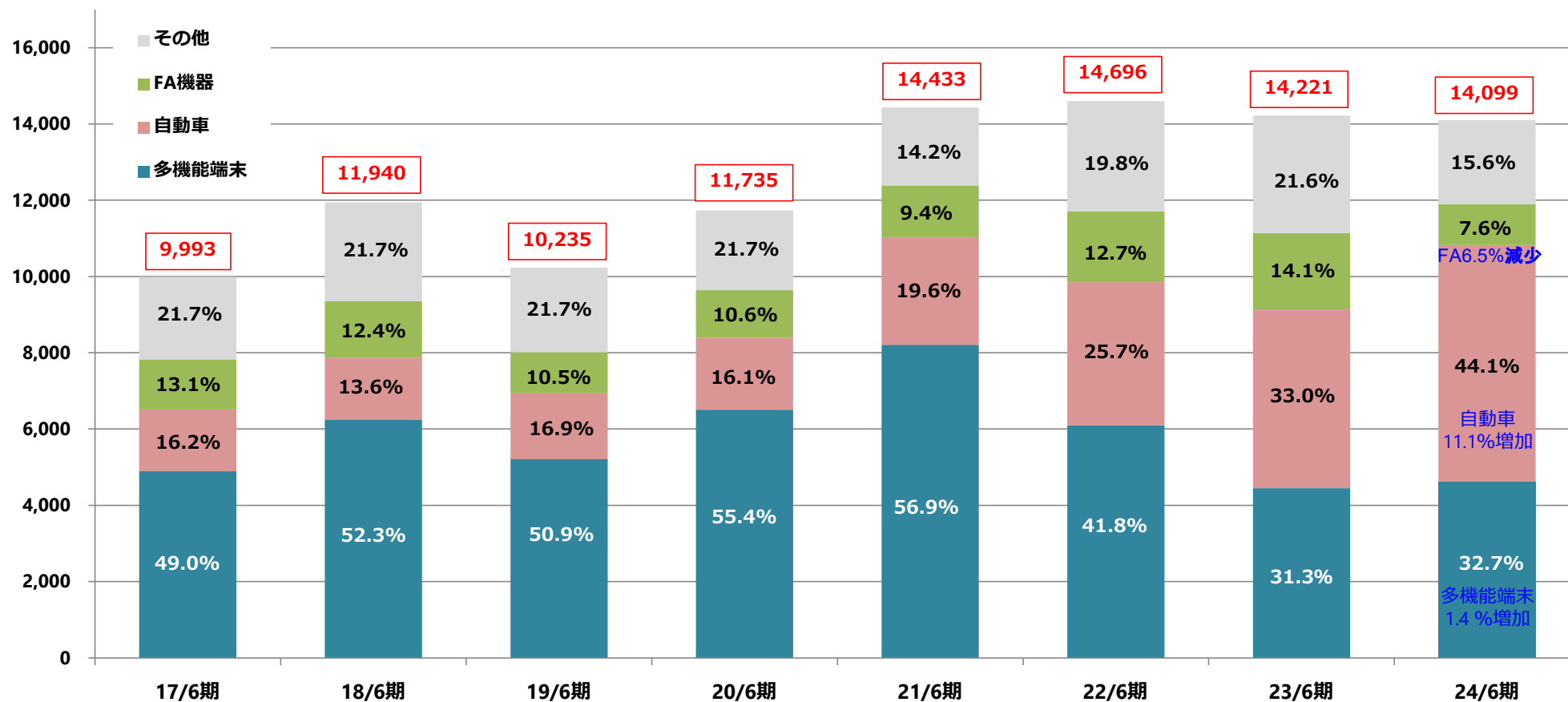
事業状況

独自技術と融合技術の深化

電子部品コネクタ（単体） 用途別の売上比率（%）

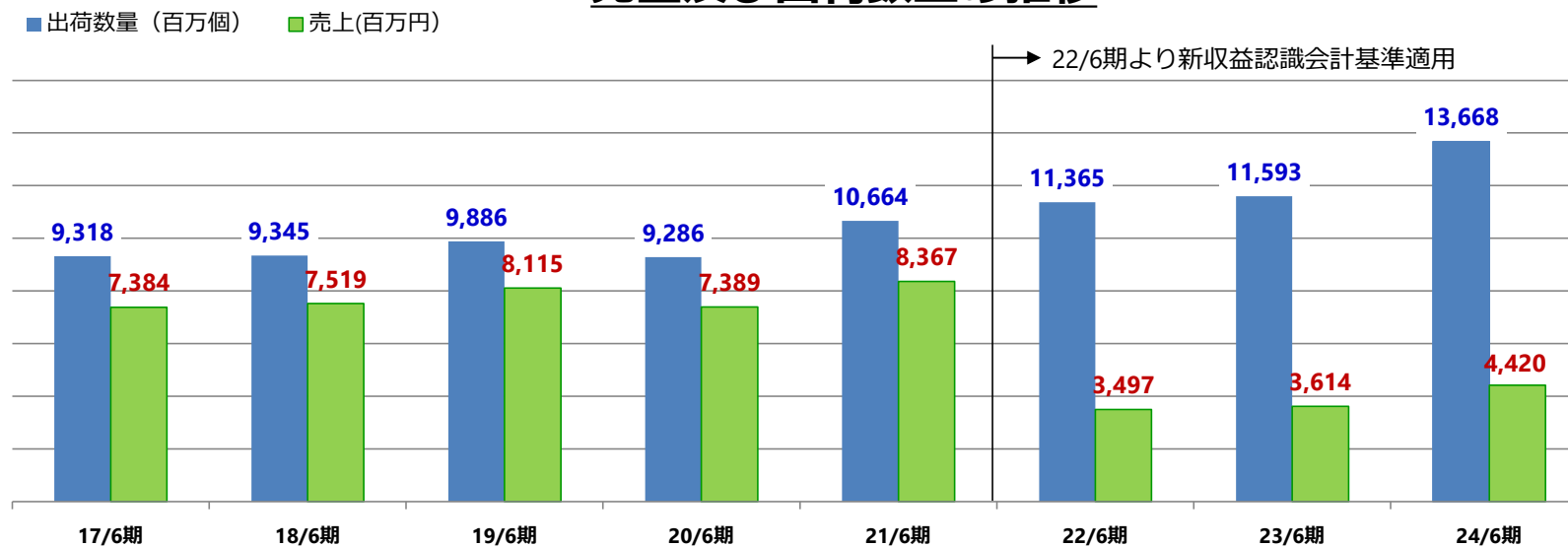
※旧会計基準で比較

単位：百万円



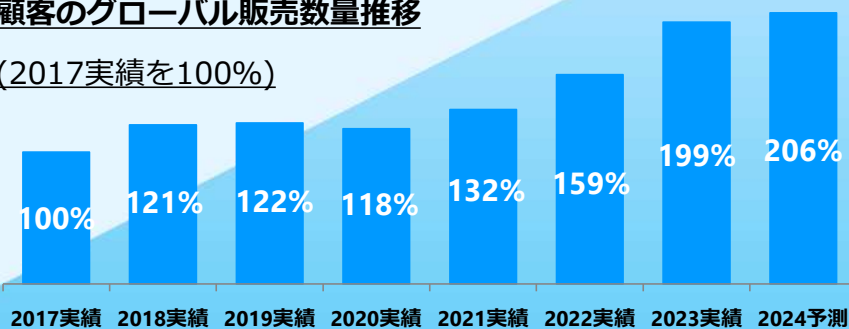
継続的な事業拡大

売上及び出荷数量の推移



顧客のグローバル販売数量推移

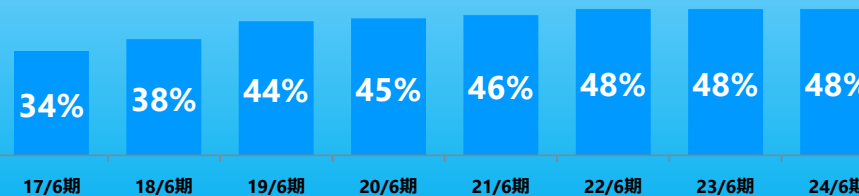
(2017実績を100%)



顧客内シェア推移

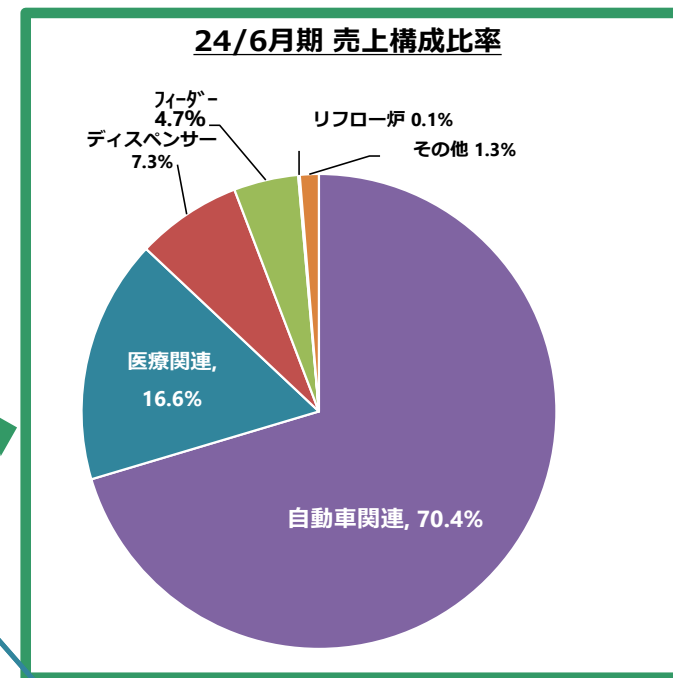
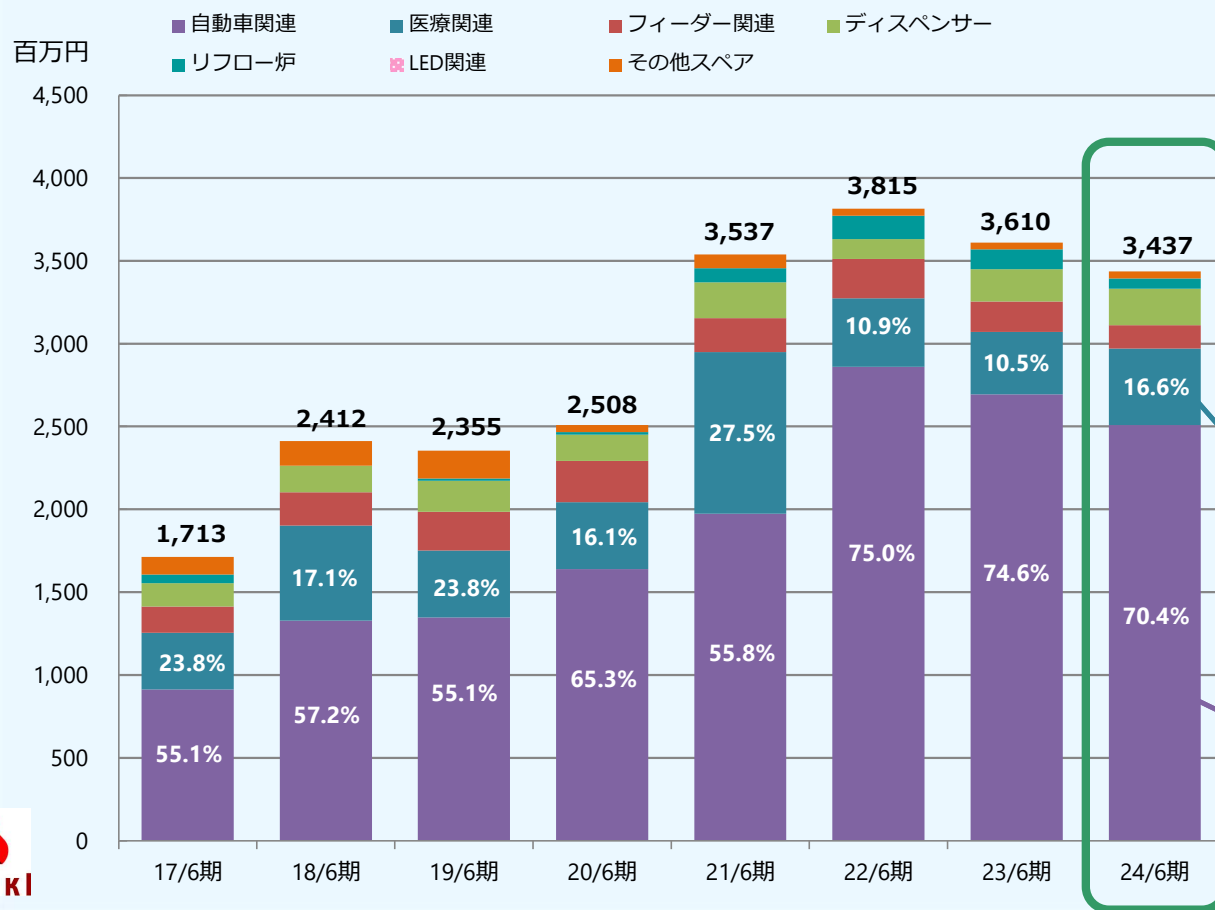
金型技術、量産技術を背景に
シェアを維持

※ 顧客の国内の仕入先における生産数量から算出



技術力・提案力を活かし新たな分野にもチャレンジ

売上(社内売買含)推移と構成比率



医療関連
 子会社(イステイカ)向け医療組立用の自動化・省力化装置などを、開発・製造。
 前期に子会社増床の量産設備設置が完了し、省力化用装置の開発に注力しています。

自動車関連 (S&S-AT)
 自動車ワイヤーハーネス組立装置などを開発・製造しています。

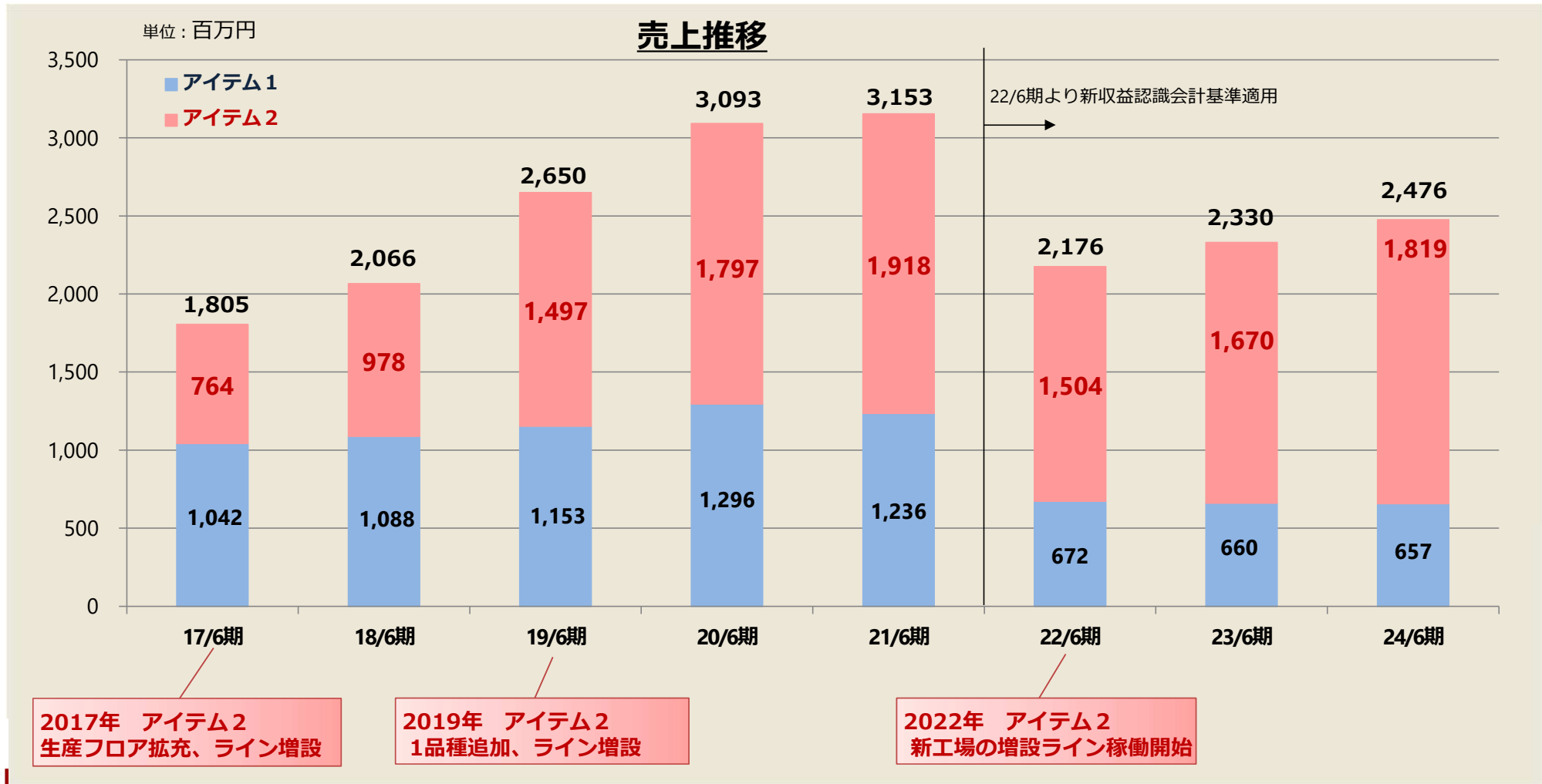


モノ作りNo.1を目指して：機械器具（医療組立）

事業セグメント

- 金型
- 部品
- 機械器具

受注拡大により更なる安定事業に発展



2025年6月期の予想

通期連結業績見通し

セグメント別売上高

(単位：百万円)

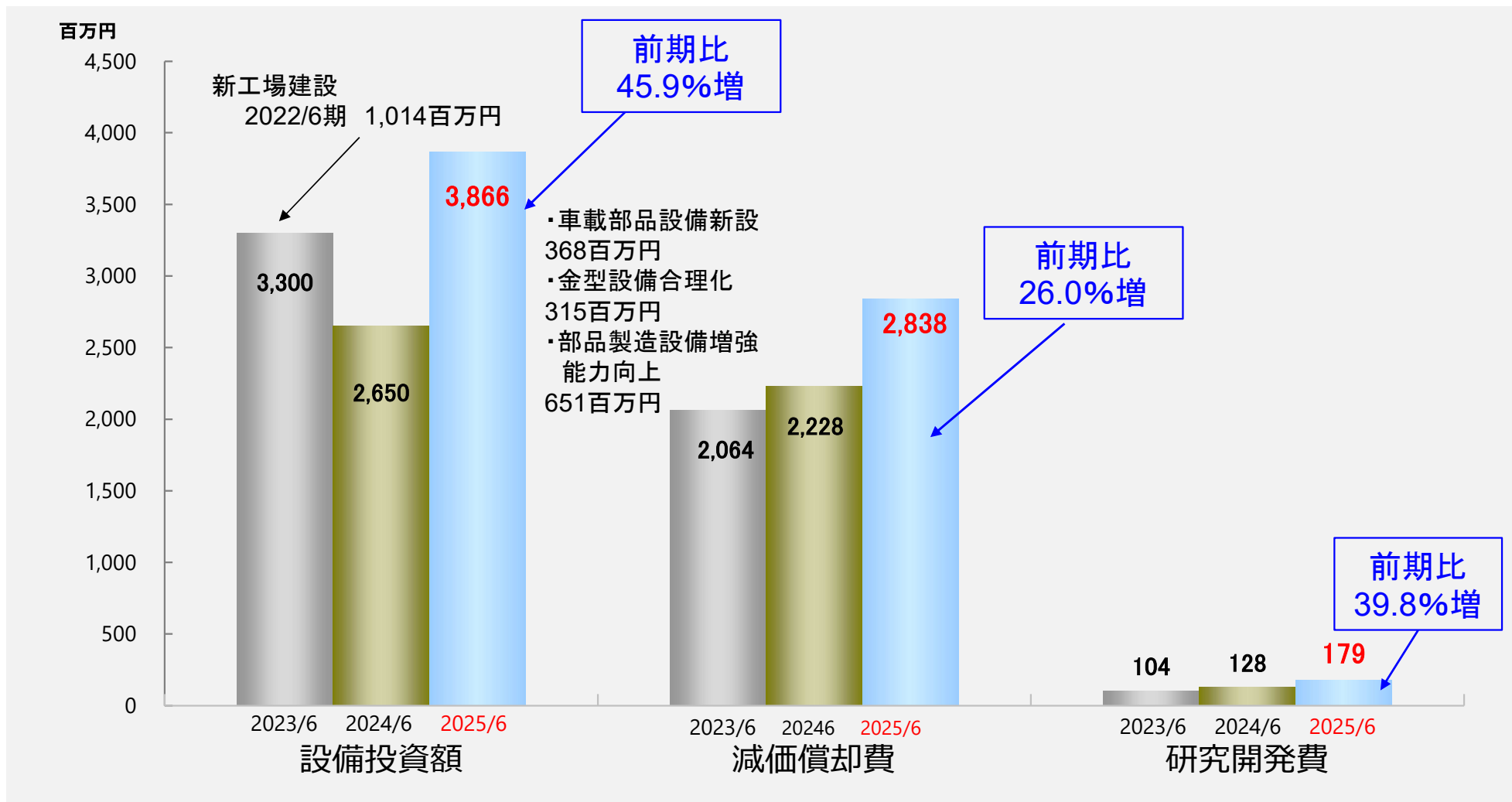
	2024年6月期		2025年6月期予想		増減		
	金額	構成比%	金額	構成比%	金額	金額比%	構成比%
■ 金型	1,561	5.6	1,519	4.9	△42	△2.7	0.2
■ 部品	20,430	73.7	22,834	74.0	2,404	11.8	△0.5
■ 電子部品コネクタ	16,010	57.7	18,342	59.4	2,332	14.6	2.5
■ 自動車電装部品コネクタ	4,420	15.9	4,492	14.6	72	1.6	△3.0
■ 機械器具	5,726	20.7	6,514	21.1	788	13.8	0.4
■ 賃貸	7	0.0	6	0.0	△1	△13.5	0.0
合計	27,726	100	30,872	100.0	3,146	11.3	0.0

通期業績予想

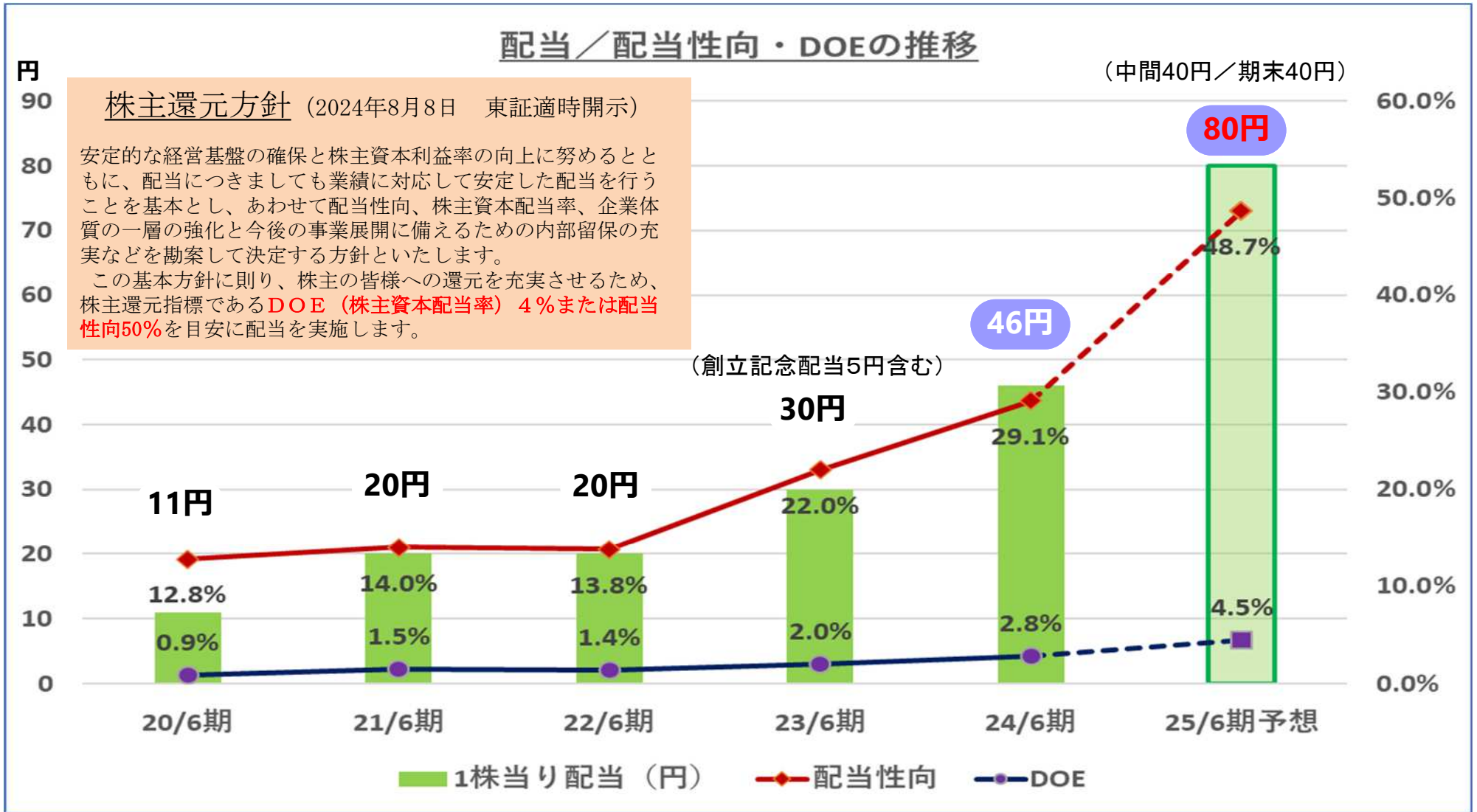
(単位：百万円)

	2024年6月期		2025年6月期予想		増減	
	金額	売上比%	金額	売上比%	金額	増減比%
売上高	27,726	-	30,872	-	3,146	11.3
営業利益	3,369	12.2	3,833	12.4	464	13.8
経常利益	3,668	13.2	3,827	12.4	159	4.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,267	8.2	2,355	7.6	88	3.9

設備投資額・減価償却費・研究開発費



配当・配当性向（予想）





中 期 経 営 計 画

当社が注力する新領域成長事業

医療組立の収益力向上

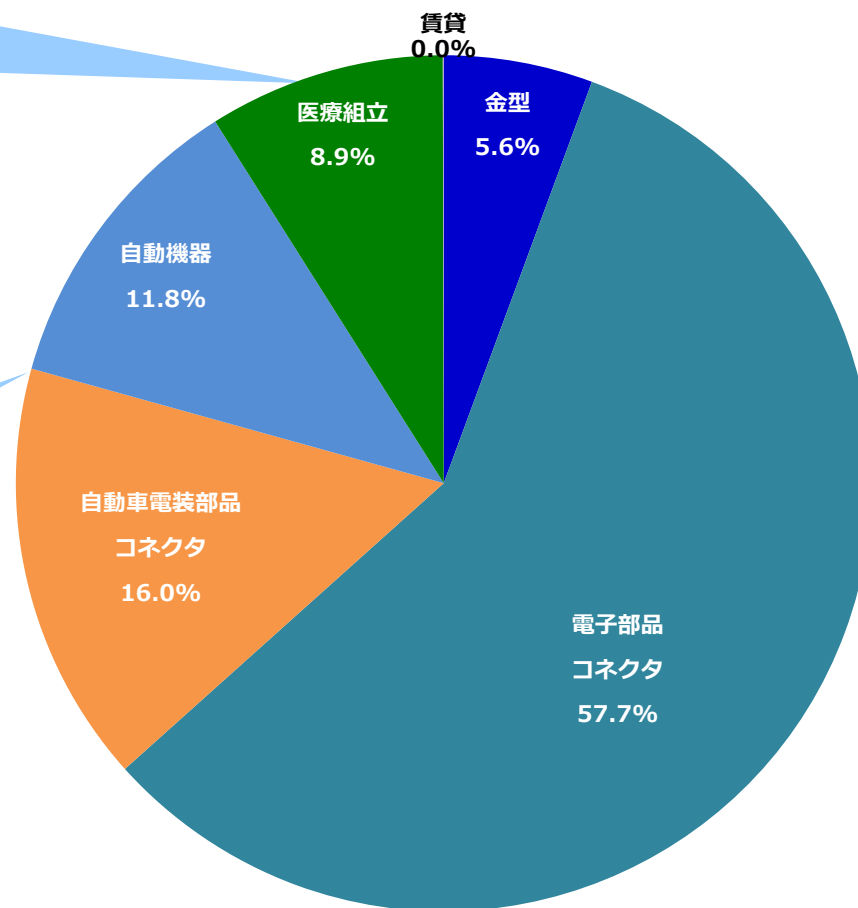
- ・増産計画に沿った生産キャパ拡大
- ・自社製の省人化装置の導入

自動車関連装置の拡大

- ・次世代ハーネス組立装置の開発・製造

新規事業領域への参入

- ・環境問題へのアプローチ
- ・鈴木ブランドの確立



車載部品ビジネスの拡大

- ・電池部品
- ・安全性能部品
- ・快適性能部部品

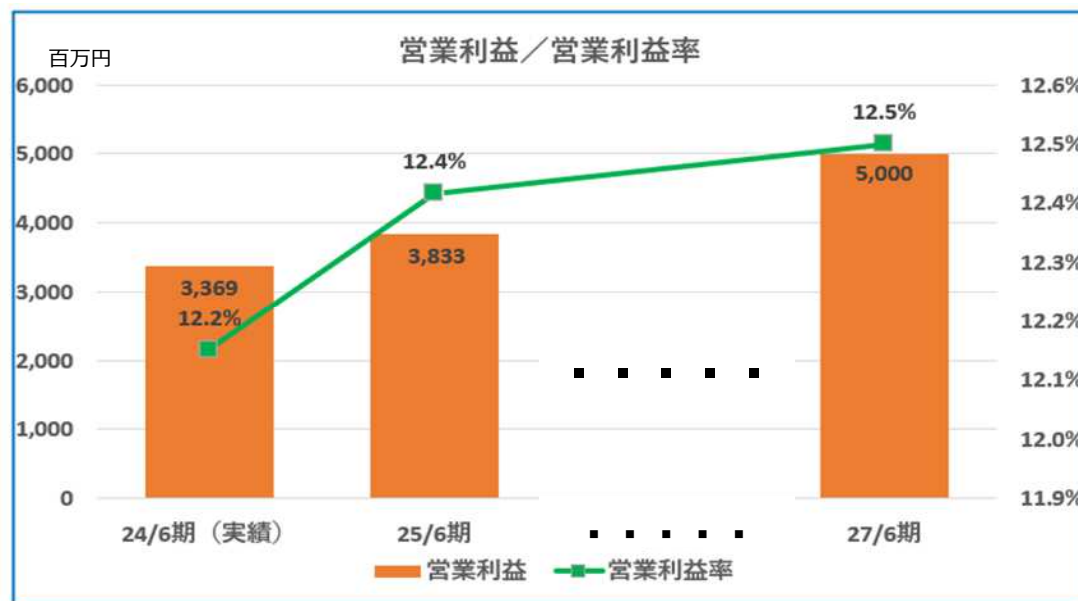
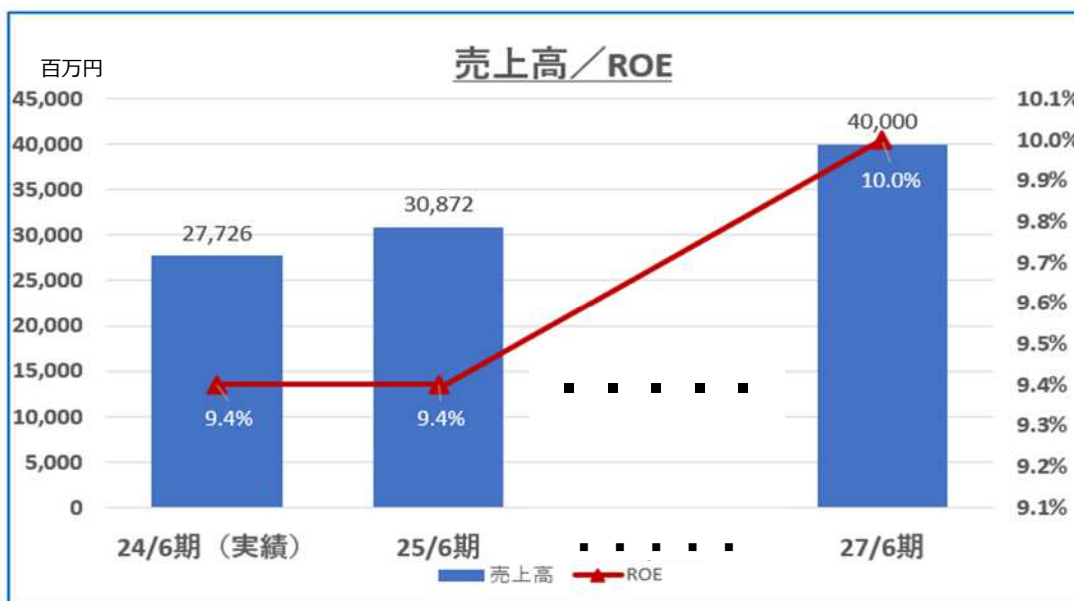
金型～プレス～めっき～成形
～自動検査・梱包の
総合技術で優位性を保つ

※売上構成比 (2024年6月期実績)

中期経営目標 2027年6月期

売上高：400億円／営業利益：50億円

ROE：10.0%以上／DOE：4.0% or DPS：50%



主要な部品セグメントと機械器具セグメントを3ヶ年で拡大

◆ 部品セグメント

- ①スマートフォン向け部品など既存製品のシェア拡大
- ②自動車部品事業(電池部品など)への継続的投資と利益率向上

◆ 機械器具セグメント

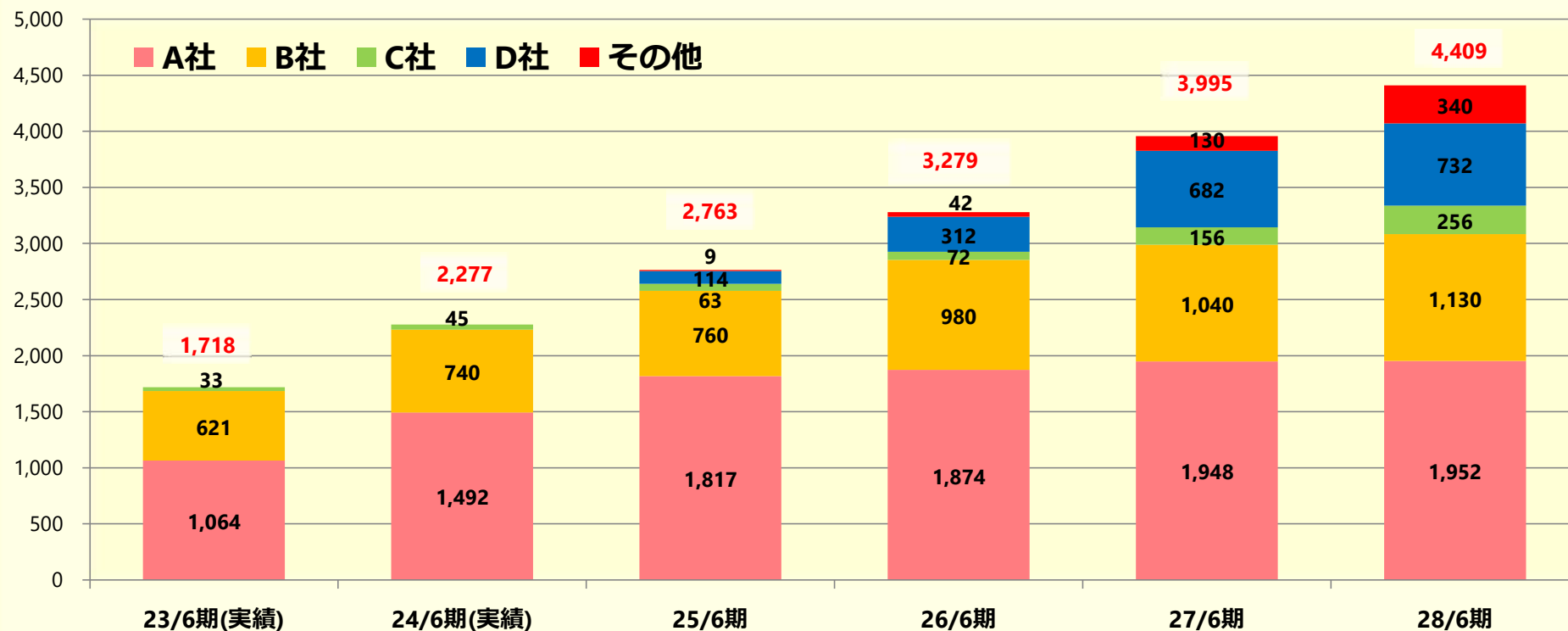
- ①自動車ワイヤーハーネス製造装置の生産能力を拡大
- ②新規事業領域への参入(食品ロボット・プラズマ技術)

★ 車載部品ビジネス (Tier1,2向け部品事業含む)

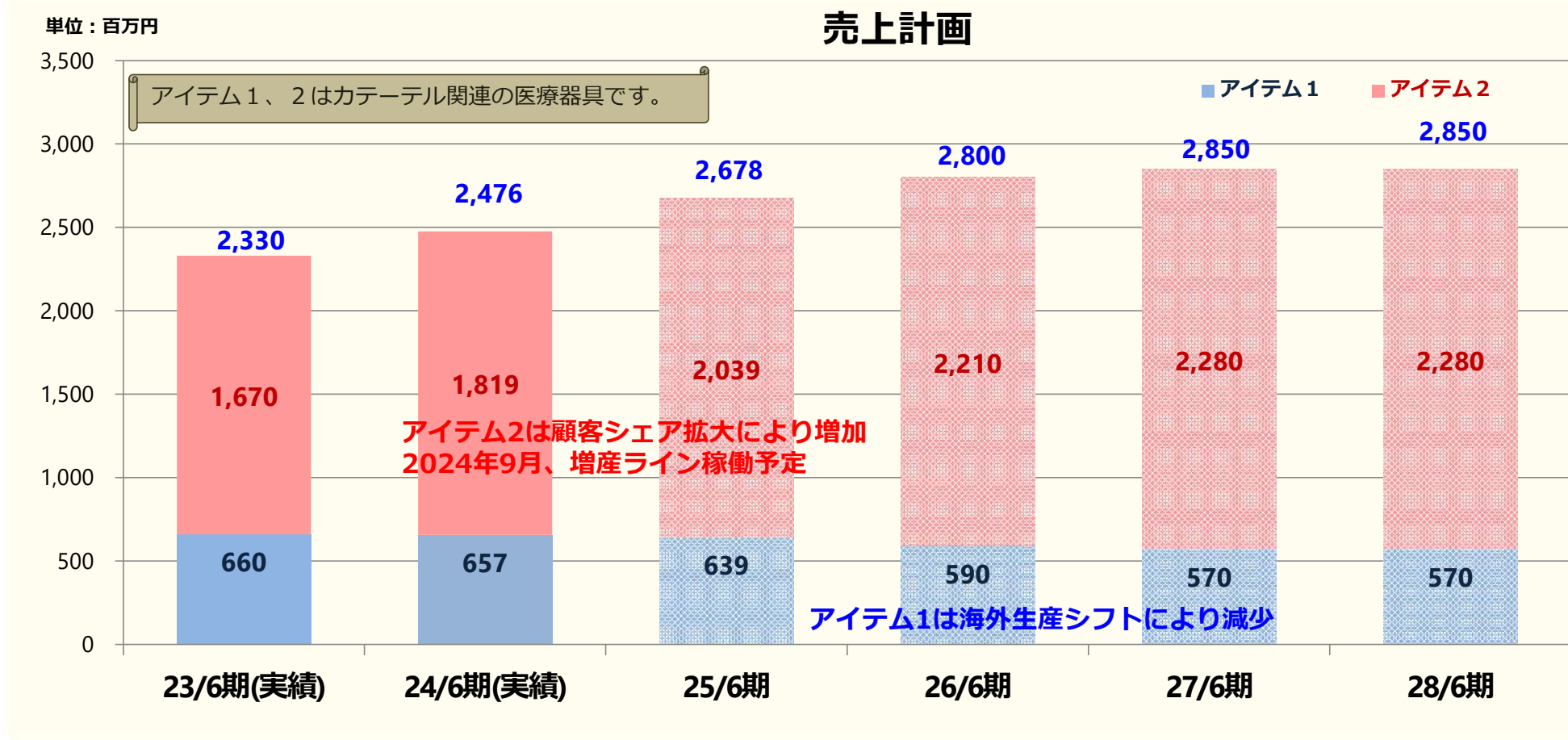
- ・ A社のトヨタ車向けリチウムイオン電池部品 (ヤリス等に搭載) と B社向け車載センサー部品は堅調に推移
- ・ D社向けのリチウムイオン電池部品を2025年より生産開始予定

単位：百万円

売上計画 (現時点での生産アイテムおよび受注予定アイテム、設備回収費は除く)



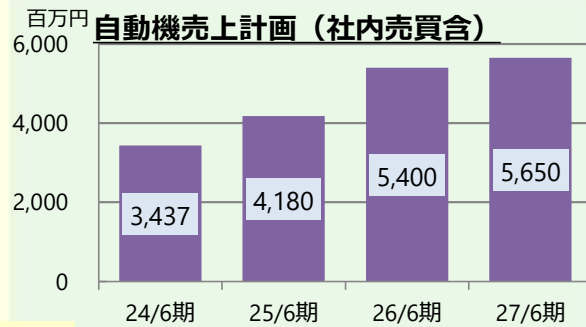
★ 医療組立の今後の展望について



アイテム2は、自社製の自動化設備を開発・導入し、収益拡大を目指します。

成長分野③ 有力となる事業の拡大

拡大を見込む自動機器事業



主な生産装置



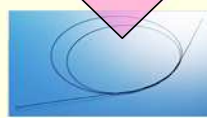
自動車ワイヤー
ハーネス生産装置



車載電池部品生
産装置 (社内用)



医療関連部品
製造装置
(社内用)



この他に、基板実装ディスペンサー、リフロー炉、各種専用機を製造

新たな業界への参入に向けた活動

環境省採択の食品ロス、CO2排出削減の 社会実装事業に参画

食品ロス削減、CO2排出削減の社会実装事業として環境省の採択を得て2023年から社会実験を開始した革新的食品鮮度維持技術「ナノスーツ」活用の設備開発を計画しています。

ナノスーツ技術を活用した設備開発を予定します。

プラズマ照射室内はアルゴン雰囲気
プラズマノズル (ライン状) 上2列、下2列

実際の香港での鮮度確認時の写真
左がナノスーツ処理あり、右は処理なし

処理効率
1m×0.5mの面積にブドウは、13房、リンゴは50個並ぶ。
ブドウ = 26房/分、リンゴ = 100個/分
凡そ現状の遊撃場ハンドリング数に見合う。

消費電力の予想
長さ1mのプラズマ発生部品 1kW、4本で4kW
ベルトコンベア他 0.15 kW 合計4.15kW

近いイメージの市販品例

日本惣菜協会に入会

日本惣菜協会が主催するロボット実装モデル構築推進の為の食品テクニカル・コミッティに参画しました。

惣菜製造工程のロボット化による人手不足解消等、食品業界への貢献を自指します。

温室効果ガス削減に向けたロードマップ

現在までの取組み結果

今期の取組み

中期目標

2019年

省エネ、再エネ対策

Step
01

(2019年度～2024年度)

- 照明LED化
- 省エネタイプのチラーへの更新
- 自家消費型太陽光発電設置
- 空調熱源機をガス式から電気式に入替え

2025年

Step
02

CO2排出量原単位

50%削減

(2019年度比)

- CO2見える化ソフト導入
- 工場エアコン省エネシステム導入
- 再エネ発電導入
- 非化石電源の活用

(低炭素電力メニューの選択、
非化石証書の購入)

2026年～2030年

Step
03

2030年スコープ1、2

CO2排出量50%削減

(2013年度比)

- エネルギー使用量の削減（省エネ推進活動、省エネ技術の導入）
- 再エネ発電導入（太陽光パネルの設置）
- 非化石電源の活用（低炭素電力メニューの選択、非化石証書の購入）

社会問題への対応と社会全体の持続性を重視した人的資本の向上に向けた取組

戦略	取組
多様な人材の活躍	<ul style="list-style-type: none"> 採用者に占める女性比率の目標を定めた積極的な採用活動 障がい者採用のためのトライアル雇用の実施
多様な働き方	<ul style="list-style-type: none"> 育児・介護短時間勤務制度などワークライフバランスの実現に向けた各種規定の整備 介護等による自己都合退職者の再雇用制度の整備
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> スペシャリスト、ゼネラリスト育成のための部門をまたいだ人事異動の実施 階層別研修等の体系的、自律的なキャリア形成のための研修制度の整備
安全で働きやすい環境	<ul style="list-style-type: none"> 安全パトロールやヒヤリハット事例の展開等の労働災害防止活動 健康診断の確実な実施、特定保健指導の推進や各事業所へのトレーニングルームの完備による従業員の健康増進

・指標および目標

項目	目標	2023年6月期実績	2024年6月期実績
正社員採用に占める女性比率	2030年6月期までに30%以上	17.2%	35.0%
女性管理職比率	2030年6月期までに7%以上	4.7%	4.2%
男性育児休暇取得率	2030年6月期までに50%以上	47.3%	65.5%

※目標および実績は国内グループ会社合算

Being an “Only-One Company”

本資料は、2024年6月期の業績に関する情報の提供と、当社に対するご理解をより深めて頂くことを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2024年6月末時点のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

お問い合わせ

ir2006@suzukinet.co.jp



代表取締役社長

鈴木 教義

取締役執行役員管理本部長

小川 清久



参 考 资 料

経営理念

「不への挑戦」 微細金型技術の徹底的な精度追求 = 不可能への挑戦

商号

株式会社鈴木 英語名：SUZUKI CO., LTD.

創立

1933年6月10日

本社

長野県須坂市大字小河原2150-1

上場

2001年2月16日 JASDAQ
 2014年7月31日 東京証券取引所市場第一部
 2022年4月4日 同プライム市場へ移行 証券コード：6785

代表者

代表取締役社長 鈴木 教義

事業内容

電子部品コネクタ、電子部品搭載装置、半導体関連装置、各種専用機、
 精密プレス金型・モールド金型 および医療関連器具の製造・販売

資本金

24億4,245万円

発行済株式数

14,404,400株（100株単位）

関連会社
 （連結子会社）

- 〔国内〕 S&Sコンポーネンツ株式会社（持株比率：51.0%）
- S&Sアドバンステクノロジー株式会社（持株比率：51.0%）
- エスメディカル株式会社（持株比率：100.0%）
- 〔国外〕 中国：鈴木東新電子（中山）有限公司（持株比率：80.0%）
- 鈴木東新電子（香港）有限公司（持株比率：80.0%）
- インドネシア：PT. SUGINDO INTERNATIONAL（持株比率：99.99%）
- （2022年8月にPT.GLOBAL TEKNINDO BERKATAMAを吸収合併）

従業員

【連結】 1,085名 【単体】 491名

※ 2024年6月末現在

株主の状況

(2024年6月末現在)

●大株主情報

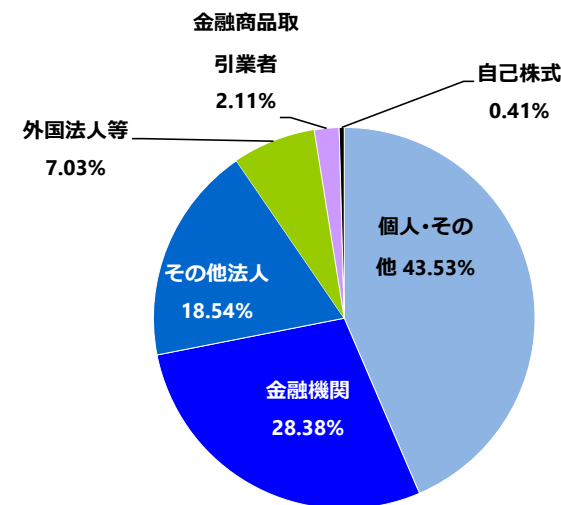
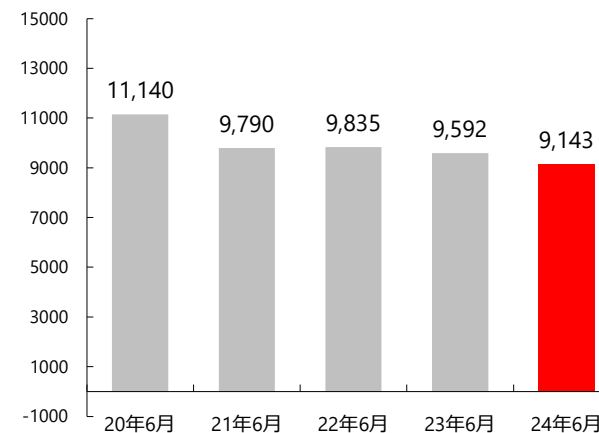
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社クリンゲル	2,272,600	15.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,126,000	14.82
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,313,500	9.16
鈴木従業員持株会	534,304	3.72
鈴木 教義	375,740	2.62
株式会社八十二銀行	310,000	2.16
DFA INTL SMALL CAP	201,423	1.40
小島 まゆみ	160,000	1.12
株式会社商工組合中央金庫	160,000	1.12
鈴木 照子	160,000	1.12

※持株比率は、自己株式(69,202株)を控除して計算しております。

●所有者別株式分布状況

	全株主数(名)	株式数(株)	株式数分布比率(%)
個人・その他	8,937	6,270,330	43.53
金融機関	15	4,088,000	28.38
その他国内法人	66	2,671,205	18.54
外国人	101	1,012,575	7.03
証券会社	23	303,647	2.11
自己名義株式	1	58,643	0.41

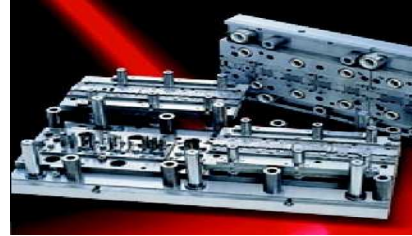
●株主数の推移



金型： ～長年の研鑽による匠の技：当社のコア技術～

業界最高レベルの
精密金型の設計・製造

売上構成比：5.6%



部品： ～金型を用いた精密部品の量産加工～

電子部品や自動車
電装部品の量産加工

売上構成比：73.7%



機械器具： ～金型・部品事業で培った技術ノウハウの応用～

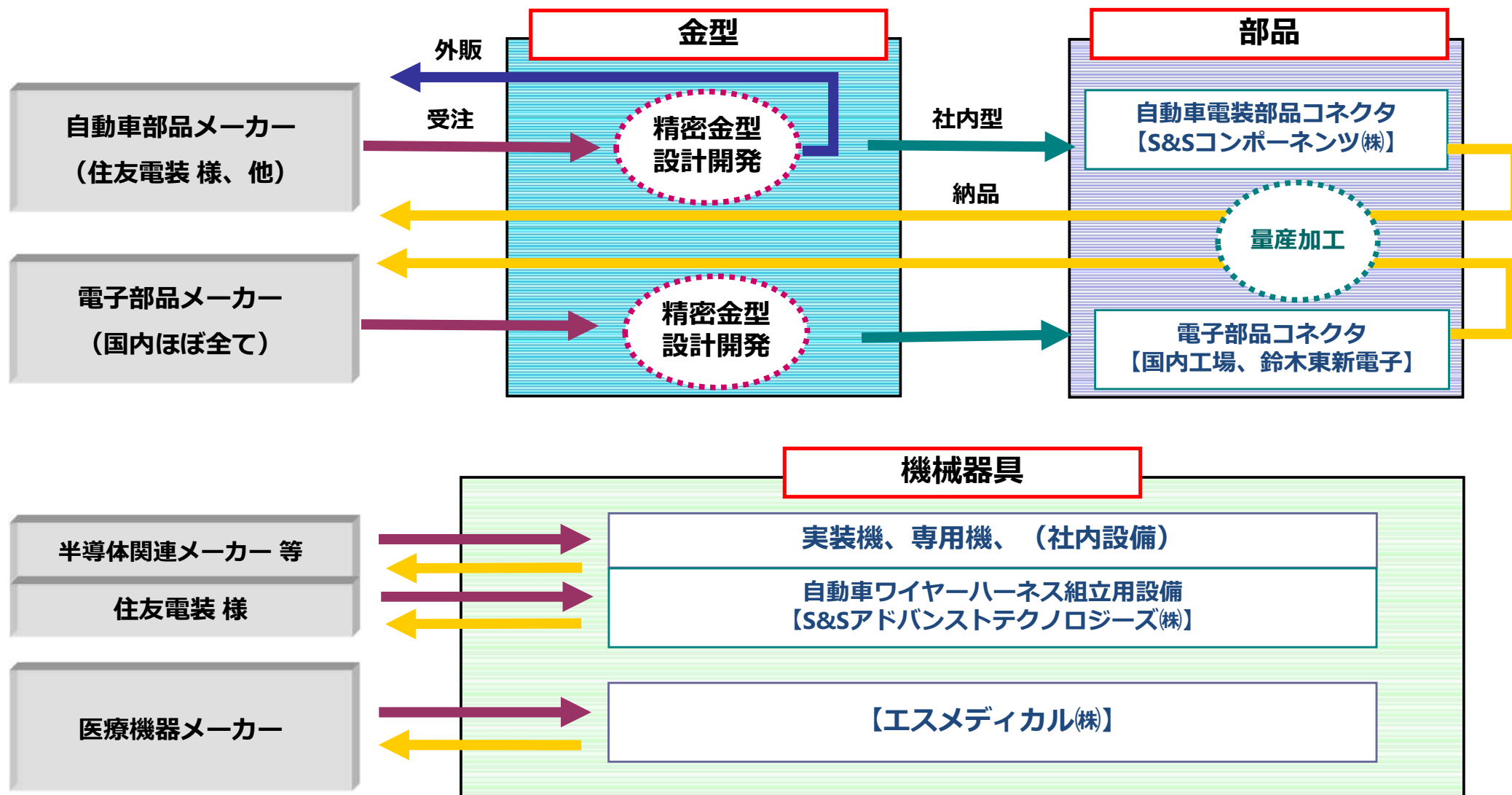
実装機や省力化機器の
設計開発
医療関連器具の組立

売上構成比：20.7%



※ 売上構成比：2023年6月末現在

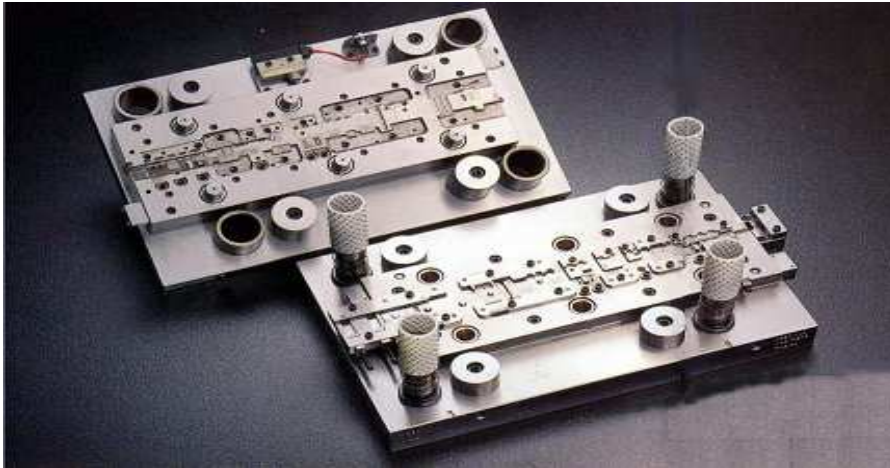
事業内容 ～事業系統図～



当社のコア技術である「金型」と「プレス量産加工の工程」

「金型」

精密コネクター金型の外観（上下別、全体）



「プレス加工」

一般的な圧着端子の加工レイアウト



1ピッチずつ順送りして、抜き・曲げ等のプレス加工を行う

